

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 子どもたちとともに「こころ」と「からだ」を育む学校

1. 支援教育の専門性や指導技術の向上をめざすことで、児童・生徒を一人ひとり大事にし、“生きる力”をしっかりと伸ばす学校
2. 児童・生徒が共生社会へ出て、自立的にたくましく生きていくため、保護者、関係諸機関と連携し、支援ネットワークが構築できる学校
3. 児童・生徒が安全安心に通い、楽しく過ごせる学校

## 2 中期的目標

## 1 支援教育における専門性及び指導技術の向上

- (1) 小・中・高3学部を見通した教育課程となるよう改善する。
- (2) 授業の質の向上と平準化のため、教材・教具の充実と共有化、アーカイブ化を推進する。
- (3) ICT 機器の活用をさらに高め、新しい授業スタイルを構築する。
- (4) 経験の少ない教員の専門性や指導技術の向上を図る。

## 2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現

- (1) 卒業後の自立と社会参加に向けて、小・中・高3学部で一貫したキャリア教育を推進する。
- (2) 高等部教員のキャリア教育・就労支援に関する実践力を強化し、就労を支援する。
- (3) 保護者に発信する進路情報を充実し、進路選択に向けた支援を強化する。
- (4) 生徒が地域への関わりを深める活動や、余暇活動・健康維持につながる取組みを推進する。

## 3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り

- (1) 個々の教職員が常に生徒の安全・安心をしっかりと守れるよう、情報共有しながら連携していく体制を構築する。
- (2) 会議や業務を効率化し、教員が生徒に直接的に関わる時間を増やす。
- (3) 生徒が毎日笑顔で通学し、教職員が心身ともに健康で職務を遂行できるよう、快適な学習環境・職場環境を構築する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【保護者・生徒向け：10月下旬実施、教職員向け：11月上旬実施】</b> ○今年度の自己診断アンケートについて、保護者・生徒（高等部）の提出率が昨年度と比較し、保護者は7%、生徒は8%下降した(教職員は99%)。次年度も引き続き協力を呼び掛けていきたい。</p> <p><b>【生徒向け自己診断の結果・分析】</b> ○昨年より5%以上数値が上がったのは、1番『学校へ行くのが楽しいですか。』、2番『授業はわかりやすいですか。』、3番『学校では友だちの大切さや社会のルールについて学ぶことができますか。』、5番『先生はこままっているとき、たすけてくれますか。』、8番『校外学習、宿泊学習、修学旅行は楽しいですか。』の5項目で、5番については約30%の上昇が見られた。日頃の教員の気づきも含め、丁寧な支援を心がけている成果と考えられる。</p> <p><b>【保護者向け自己診断の結果・分析】</b> ○昨年と比較し、肯定的意見の数値が上昇した項目が多く見られた。その中でも、28番『企業・施設・作業所等の情報を提供している。』29番『企業実習・作業所実習の取り組み・支援が適切に行われている。』は、ともに大きな数値の上昇が見られた。9月に実施されたPTA施設・作業所合同説明会や進路に関わる情報発信の成果と考えられる。</p> <p><b>【教職員向け自己診断の結果・分析】</b> ○34～61番までの28項目では、40番『施設・設備』45番『ICT機器の充実』46番『ICT機器の活用』52番『校内清掃』の4項目が7割に達せず、否定的意見が3割を超えた。特にICT関係の数値は大きく下がり、TVモニターやPCの老朽化、コード等の不足、タブレット等が気軽に使えない、ICT機器の活用に関する研修の不足等が考えられ、教員や児童・生徒のICT機器活用のためにも早急な対応が必要である。『施設・設備』『校内清掃』については、高等部の数値が突出して低く、日頃から教員、生徒ともに清掃を行っているが、清掃の成果が見られないプレハブ棟(トイレ含む)の現状が大きく影響していると考えられる。</p>	<p><b>【第1回】(7月5日)</b> ＜主な内容＞ ・委員、事務局紹介 ・学校経営計画の確認 ・各学部の状況説明 ・第1回授業アンケート集計結果 ・学校教育自己診断の趣旨説明など ＜主な意見＞ *施設作業所合同説明会をPTAとの協力で実現することは大変喜ばしい。 *学校経営推進費で獲得した八尾アスレチックフィールドは、体を動かす楽しみが味わえてよい。また、教員からアイデアが出て実現に至ったのが素晴らしい。 *小学部や中学部の教員が施設作業所を見学することはとても大事。 *障がい者支援セミナーを実施しているので見学に来てほしい。</p> <p><b>【第2回】(11月29日)</b> ＜主な内容＞ ・授業及び施設見学 ・報告・令和2年度使用教科用図書を選定、学校見学会、学校経営推進事業など ＜主な意見＞ ・授業見学では、教員が一人ひとりに丁寧に関わっていて、やりがいや達成感を大切にしている印象を受けた。各学部の見学をすることにより意見も出しやすくなる。 ・八尾アスレチックフィールド(ボルダリングウォールやウッドチップコース)はメンテナンスなど必要だが、安全に効果的に進めてほしい。</p> <p><b>【第3回】(3月3日)</b> ＜主な内容＞ ・報告・令和元年度学校教育自己診断、令和元年度学校経営計画の評価 ・令和2年度学校経営計画(案)、府教育委員会への提言について(案) ＜主な意見＞ ・就労を目標にすることも学校として大切だが、適切な進路先だったのか定着率などを知ることが必要。先を見据えた支援が大切。 ・学校の避難訓練などを通して、自宅で災害が起こった時の対応や避難を考えるきっかけに繋げてほしい。 ・働き方改革について、仕事を行う上でやり方は色々あるが、「目的が何か？」という丁寧な説明があれば業務改善に繋がっていくと思う。</p>

## 府立八尾支援学校（高等部）

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 ( ):平成30年度高等部結果	自己評価 【保】保護者向け学校教育自己診断 【生】生徒向け学校教育自己診断自己診断 【教】教職員向け学校教育自己診断
1 支援教育における専門性及び指導技術の向上	(1)小・中・高3学部を見通した教育課程となるよう改善	① シラバスを整備する。また、指導計画書の様式を統一する。  ② 生徒一人ひとりの障がい特性や教育的ニーズに応じた学習内容・指導・支援の方針の明確化して共有化する。	① 新しいシラバスと指導計画書を作成する。  ② 【保】「個別の教育支援計画」(83%) → 85% 【生】「授業は理解しやすい」(69%) → 75%	① ・新様式に対応したシラバスを作成するため、令和2年度内の完成目標とし準備を進めた。 ・指導計画書は、検討を進めている「評価二期制」と連動して、来年度も引き続き様式を検討することとする。 【△】 ② ・【保】肯定的評価：93% (10pt アップ) ・【生】肯定的評価：79% (10pt アップ) 【◎】
	(2) 授業の質の向上と平準化のため、教材・教具の充実と共有化、アーカイブ化を推進	① PT により、教材バンクの活用について高等部としての提案をまとめる。	① 提案書を作成し、運営委員会に9月末までに提出する。 【保】「教材・教具の工夫」(84%) → 85%	① ・1月末に提案書が提出された。これまでの教材・教具のデータを整理し、アーカイブ化を行った。また教科を中心に15項目のインデックスを作成し、容易に検索ができるようにした。 ・【保】肯定的評価：91% (7pt アップ) 【◎】
	(3)ICT 機器の活用による新しい授業スタイルの構築	① プロジェクターや書画カメラ、電子黒板化ユニットなどを活用する。  ② 他校事例を研究し、校内で活用する。	① 【教】「ICT 活用」(84%) → 90%  ② 他校の公開授業を3回以上見学し、報告書をまとめるとともに、報告会(研修)を実施する。	① ・【教】肯定的評価：70% ★ICT活用の意識は高まっており、教材準備も進んでいる。一方で、教室や機器の利用調整や環境整備が十分ではなかったために肯定的評価が下降したと考えられる。 【△】 ② ・他校の授業見学は1回ではあったが、他に講習会やセミナーにおいて他校の実践例を4例収集した。また、これらについて校内で報告会(伝達講習)を実施し、教材サンプルを共有した。 【○】
	(4)経験の少ない教員の専門性や指導技術を向上。	① 効果的な研修(校内・外部)を計画し、実施する。  ② メンターによる指導を充実する。	① 【教】「計画的校内研修」(93%) → 維持する 【教】「専門性を高める」(93%) → 維持する  ② 年3回以上、定期的に報告会を開催する。	① ・【教】肯定的評価：93% (維持) ・【教】肯定的評価：86% 【○】 ② ・初任者の指導教員に2～3年め、メンターに中堅の教員を配置し、指導の充実を図った。各メンターからは、メンティーの悩みや課題について、定期的な全体報告会としては実施しなかったものの、個別のヒアリングを随時実施した。 【○】
2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取り組みの充実による自立や社会参加の実現	(1)小・中・高3学部で一貫したキャリア教育を推進	① フロントティアコースおよび職業・生活実践の授業内容を充実する。  ② 生徒の自己理解やマナー習得に結びつく学習を実施する。  ③ 小・中・高3学部の連携によるキャリアサポートプログラムを企画し、実施する。	① 前年度に見直したカリキュラムを実施する。フロントティア生について、「キャリア能力に関する評価測定のための指標」4項目のうち、1人1項目以上が前年度よりランクアップする。  ② 【教】「キャリア教育」(93%) → 維持する。 【保】「キャリア教育」(82%) → 85%  ③ 販売・接客実習など、具体的なプログラムを実施する。	① ・対象となるコース生12名 2名：4カテゴリーとも、既に「S」評価個別指標は1指標以上アップした。 7名：カテゴリーが1項目以上アップした。 3名：個別指標が1指標以上アップした。 【○】 ② ・【教】肯定的評価：95% (2pt アップ) ・【保】肯定的評価：90% (8pt アップ) 【◎】 ③ ・3年計画を立案し、本年度は高等部が商品制作～販売実践を実施することとした。販売は2月1日の作品展の際に、高等部全生徒が参加して実施した。 ★来年度以降、早期キャリア教育の一環として、小・中学部にも買い物学習や商品・店舗づくりなどでプログラムに参画してもらう。 【○】

## 府立八尾支援学校（高等部）

	(2) 高等部教員のキャリア教育・就労支援に関する実践力を強化し、就労を支援	<p>① 進路指導に関する知識向上と指導力強化のため、研修やワークショップを開催する。</p> <p>② マッチング機会を充実するため、実習先を新規開拓する。</p> <p>③ 企業、障がい者就業・支援センターや福祉関連施設との連携を強化する。</p>	<p>① 外部講師による研修を3回以上、ワークショップを5回以上開催する。 【教】「進路指導研修」(91%) → 93%</p> <p>② 高等部全教員および小・中進路部教員により実習先を10社新規開拓する。 【保】「実習の取り組み」(81%) → 85%</p> <p>③ 企業就労人数 6人 (H30は5人) 3年生の校外学習として夏季作業所実習を実施する。 3年生全員の進路が決定する。</p>	<p>① ・研修を3回(外部講師1回、内部講師2回)施設見学会(ワークショップ)を5か所で実施した ・【教】肯定的評価：93% (2pt アップ) 【O】</p> <p>② ・新規開拓実習先：16社 中小企業家同友会との連携を強めることができた。 ・【保】肯定的評価：90% (9pt アップ) 【◎】</p> <p>③ ・企業就労人数：4人 (他に就労継続支援A型事業所：1人) ・夏季作業所実習には、3年生32名中30名が参加した。 ・3年生32名全員の進路が決定した。 【O】</p>
	(3) 保護者に発信する進路情報の充実し、進路選択に向けた支援を強化	<p>① 保護者向け研修会と施設見学会を実施する。</p> <p>② 「進路だより」「進路通信」を発行して、きめ細かく情報を発信する。</p>	<p>① 保護者向け研修会・見学会を10回開催する。</p> <p>② 「進路だより」「進路通信」を合計年12回発行する。 【保】「進路に関する情報」(92%) → 維持する。</p>	<p>① ・研修会・見学会を10か所で18回開催した。PTA主催で施設作業所合同説明会を実施し、18法人43事業所が参加した。 【◎】</p> <p>② ・進路情報の発信：年14回発行した。 ・【保】肯定的評価：94% (2pt アップ) 【O】</p>
	(4) 生徒が地域への関わりを深める活動や、余暇活動・健康維持につながる取組みを推進	<p>① 校外ボランティア活動を企画し、実施する</p> <p>② ボッチャやパラスポーツを授業に取り入れる。</p> <p>③ 基礎体力向上の取組みを確実に実行する。</p>	<p>① フロント生による駅の清掃など具体的な活動を各学年年間2回実施する。</p> <p>② 各学年で授業に取り入れる。</p> <p>③ 朝のランニング等、個人別に目標を設定して、実行する。</p>	<p>① ・河内山本駅構内ならびに周辺の清掃を各学年が実施した。 ・大阪マラソンボランティア活動へ各学年が参加した。 【O】</p> <p>② ・各学年で、パラスポーツ(ボッチャ)に加え、グラウンドゴルフ、フロアホッケー、フライングディスク等のニュースポーツを授業に取り入れた。 【O】</p> <p>③ ・ランニング周回数など、生徒の実態に合わせた個人目標を設定して実行した。 【O】</p>
3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り	(1) 生徒の安全・安心をしっかりと守れるよう、教職員が情報共有しながら連携していく体制を構築	<p>① 指導チェックリストを活用しながら、適切な生徒指導と組織的な対応をする。</p> <p>② 各種防災訓練を実施し、課題を整理して対応を完了する。</p> <p>③ 防災関連マニュアルを見直し、必要に応じて更新・改訂する。</p>	<p>① 【教】「生徒指導の組織的対応」(88%) → 90%</p> <p>② 実施回数：7回 【教】「防災教育・安全教育」(100%) → 維持する。</p> <p>③ 関連マニュアルすべての見直しを9月末までに完了する。</p>	<p>① ・【教】肯定的評価：93% (5pt アップ) ★教員間の生徒指導のベクトルを合わせるべく、研修の充実や情報共有を強化する。 【O】</p> <p>② ・実施回数：7回 ・【教】肯定的評価：95% ・地震避難訓練は、保護者見学を実施した。他の訓練も計画通り、円滑に実施できた。 【O】</p> <p>③ ・関連マニュアルの見直しを完了した。 ・休日・夜間等における大規模災害BCP及び教員による防災実働訓練を計画することを目的としたPTを結成した。 【O】</p>
	(2) 教員が生徒に直接的に関わる時間の増加	<p>① 高等部内の業務分担の見直しをし、業務を平準化する。</p> <p>② 会議ルールの見直しをする。</p> <p>③ 業務効率化のアイデアを募集する。</p>	<p>① 【教】「労働条件改善」(28%) → 40% 【教】「分掌、学部、学年連携」(81%) → 85%</p> <p>② 見直した会議ルールを文書化し、共有する。 実施チェックシートを作成し、高等部会・学年会での100%実施を確認する。</p> <p>③ 教員から業務効率化のアイデア提案が1人1件以上提出される。</p>	<p>① ・【教】肯定的評価：51% (23pt アップ) ・【教】肯定的評価：74% 【O】</p> <p>② ・チェックシートは作成しなかったが、会議資料は開催前日までに配付することをルールとして決め、徹底した。これにより案件提出の遅れが減少し、出席者が事前に案件内容を把握することにより、会議時間が約10%短縮された。 【O】</p> <p>③ ・提出件数：57件(44名中42名が提出)アイデア38件、問題提起19件 ⇒ 7件は実施済み、11件を検討中 【O】</p>

## 府立八尾支援学校（高等部）

	(3) 快適な学習環境・ 職場環境の構築	<p>① 高等部関連施設の安全点検を徹底する。</p> <p>② 教職員による定期的な一斉清掃や、生徒の清掃実習により学校の美化を推進する。</p>	<p>① 実施回数：月1回 【教】「施設・設備の整備」 (63%) → 70% 【保】「安全な施設や設備」 (63%) → 70%</p> <p>② 職員清掃：月1回 生徒・教員合同の一斉清掃： 各学期1回 【教】「校内清掃活動」 (58%) → 70% 【保】「校内清掃」 (65%) → 70%</p>	<p>① ・毎月1回実施した。 ・【教】肯定的評価：42%  ・【保】肯定的評価：78%（15pt アップ） ★来年度は、点検用紙に修繕完了チェック欄を設け翌月に確認し、点検を徹底する。 【O】</p> <p>② ・職員清掃：毎月1回実施した。 一斉清掃：各学期に1回実施した。  ・【教】肯定的評価：51%  ・【保】肯定的評価：74%（9pt アップ） ★来年度は周知方法を工夫して、職員モチベーション向上を図る。 【O】</p>
--	-------------------------	--	---	---